



平成28年3月22日  
京都市立桂坂小学校  
校長 林 正 幸

後期 特別号

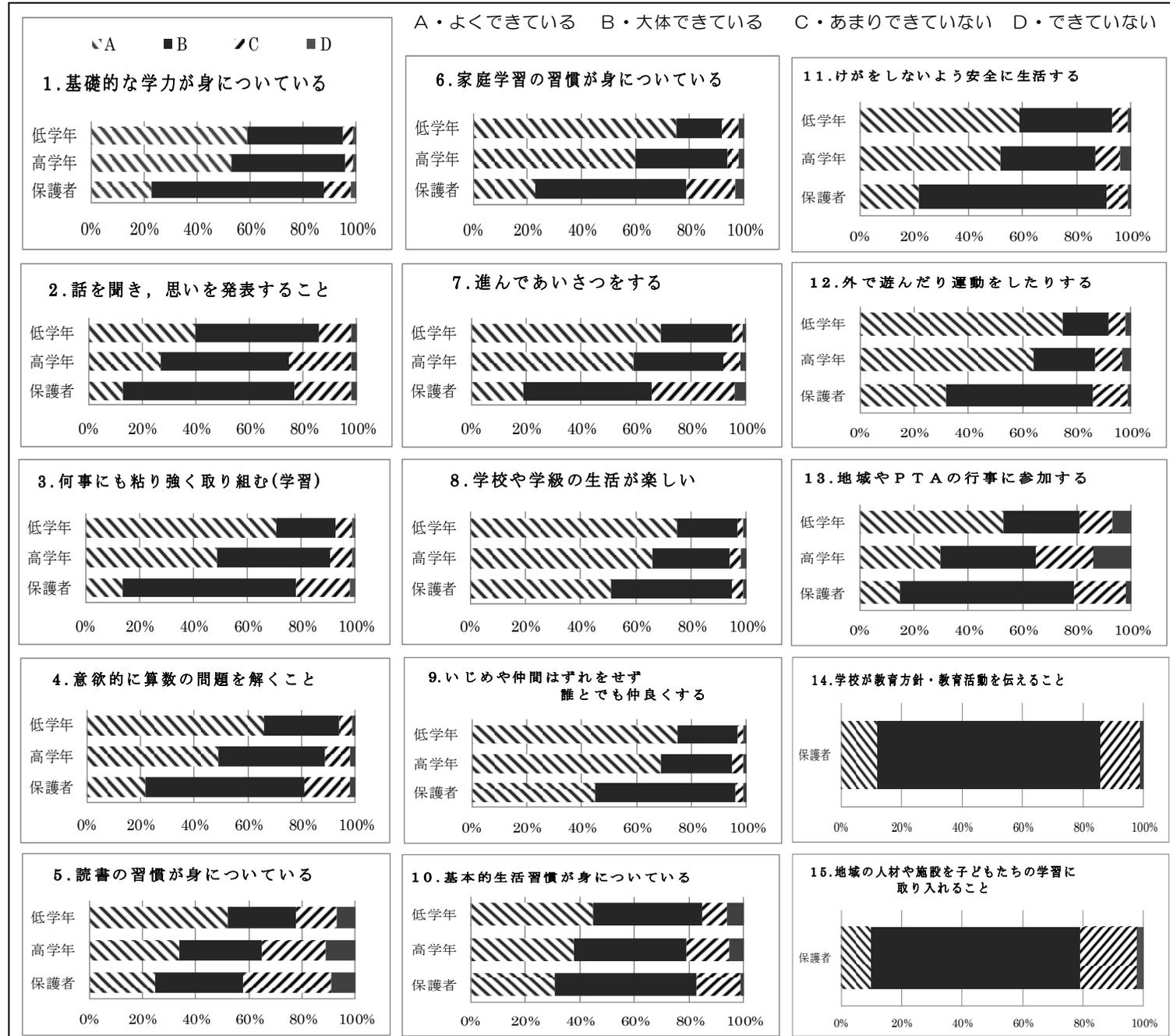


Email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp

お忙しい中、学校評価のアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



## 学校生活について(ふりかえり)アンケート結果【後期】【児童・保護者アンケートより】



【児童・保護者アンケートの結果から】

今回の学校評価でも前期同様に高い評価をいただいた項目が8「学校や学級の生活が楽しい」、9「いじめや仲間はずれをせず誰とでも仲良くする」の項目でした。これは多くの学年で学級を超えて学年体制を作り、学年団として子どもたち全員を見るという姿勢で、指導にあたったことで、子どもたちが安心して楽しい学校生活を送ることができるのではないかと思います。更に、問題があった時には、その日のうちにしっかりと聞き取りをして納得のいく指導をしたことで、不満や疑問を家に持ち帰ることが解消されたことも楽しい学校生活につながったと考えます。

また1「基礎的な学力が身についている」についても高い評価になっています。これは丁寧に継続的なノート指導に取り組んだ学年が多く、それによって書くことに意欲的に取り組み、書くことに苦手意識を持っていた児童も自信を持つようになってきたことが結びついているのではないかと思います。更にノートに書いた考えを交流することを楽しむ子を増やすことで2「話を聞き、思いを発表すること」に更に積極的に取り組む児童を増やすことにつなげたいと考えます。

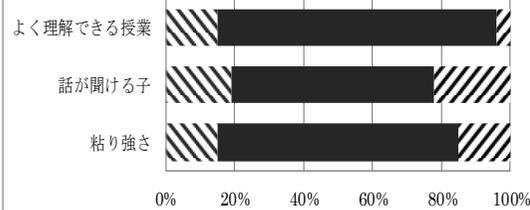
3「何事も粘り強く取り組む」や4「意欲的に算数の問題をとくこと」といった項目が高学年において今回若干下がっています。取り組むべき課題が複雑で難解なものになることも一因でしょうが、課題を明確にし、道筋を丁寧に指導することで、達成感や充実感を味わうという経験をたくさん持たせたいと思います。また、常に課題となる5「読書の習慣が身についている」については、学校の朝読書等はしっかりと習慣化し、全員が静かに本に向かっています。また、毎年、図書が充実されていくことの効果もあって学習中に図書館に行って読書をすることは大変楽しみにし、調べ学習で本を活用することも増えています。しかし、読んでいる本の内容は個人差があり、読みの力にも差があります。読書紹介やブックトーク等本に関心をもてるような取組を増やしていきたいです。また、宿題として家庭での読書の機会を作ることも一案かと思えます。7「進んであいさつをする」徐々に自分からあいさつをする子が増えてきています。しかし、朝の登校時に旗当番で立ってくださっている保護者の方や、学校を訪問されたお客さん等に対しては、自分から進んであいさつできる子は大変少ないです。あいさつの大切さを伝え続け、心地よさを体験しながら、大人がお手本を示し続けることが大切です。10「基本的な生活習慣が身についている」については、高学年が上がり低学年が下がる結果となりました。学校として大切にしたいことをきちんと保護者に伝え、家庭との連携を密にして取り組んでいく事の重要性を改めて感じています。

# 教職員アンケートより

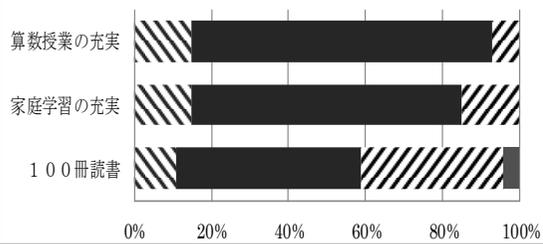
A・よくできている B・大体できている  
C・あまりできていない D・できていない

◐A ◑B ◒C ◓D

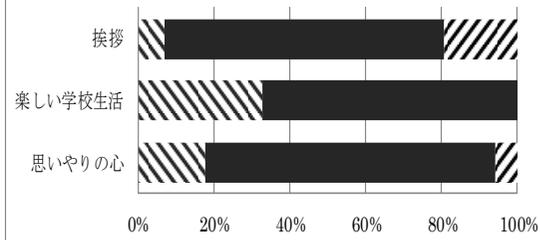
## 「確かな学力」について①



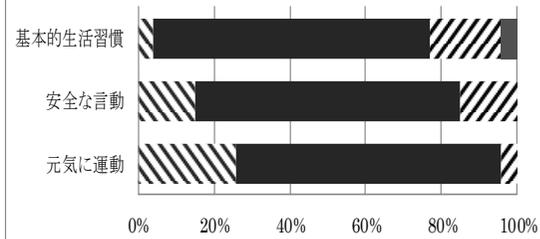
## 「確かな学力」について②



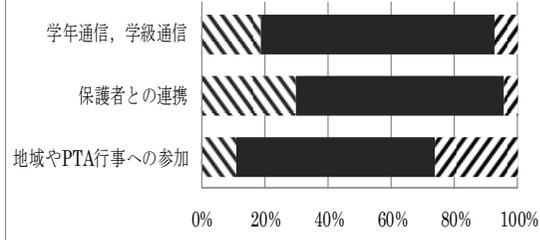
## 「豊かな心」について



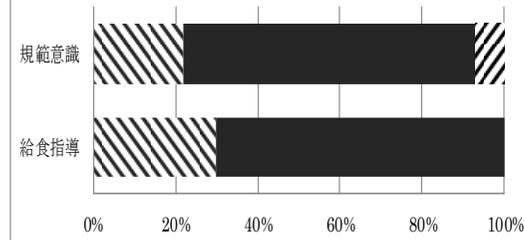
## 「健やかな体」について



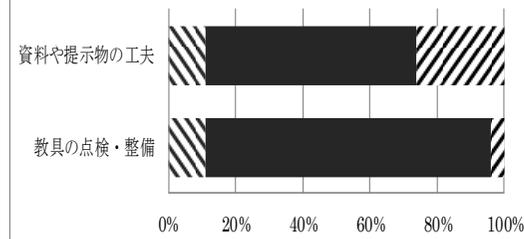
## 地域や家庭との連携について



## 生活指導について



## 教材・教具について



## 【教職員アンケートより】

教職員は、保護者・児童のアンケート結果を受けて、自己の取組の成果と課題を考察・分析した上で自己評価アンケートを実施しました。結果として教職員が十分に児童の成果を上げられなかった観点において児童・保護者アンケートにおいても課題としてあがってきます。

まず、「確かな学力」の〈話が聞ける子〉〈粘り強さ〉については、〈読書の習慣〉と大いに関わる部分があると考えます。しっかりと集中して読む、聞く力をつけることは本校児童の大きな課題です。その課題解決に向けて〈読書活動〉を含めて取り組んでいく必要があると考えます。「豊かな心」の〈挨拶〉については〈規範意識〉や〈思いやりの心〉といった項目とも深く繋がっています。常に指導者が意識をもって学校として全教職員が同じ目線で高めていこうとする姿勢を持たなければならないと思います。また、「健やかな体」の〈基本的な生活習慣〉については「確かな学力」の〈家庭学習の充実〉とも大いに関わりがあり、それも含めて、学年通信や学級通信をより充実させ、保護者に必要な情報を発信し続ける必要があるとおもっています。

教職員は今回の結果を客観的且つ謙虚に受け止め、指導や取組の改善を図り、より一層充実させていきたいと考えています。

## 3月14日（月）第3回学校運営協議会

（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

「保護者・児童・教職員アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合い、理事の方々からご意見を伺いました。

まず「読書の習慣が身についている」という項目の評価が低いことについて、児童の実態を見ていると高学年で長文を正しく読み取ることが苦手な児童が少なくない。興味・関心のある内容の本は手に取るが、物語や小説、伝記など字が多い本は敬遠する傾向があるのではないかとご意見をいただきました。そういった実態を改善し、読書の習慣を身につけるためには、低学年から文字に親しむ習慣をつけておくことが大切である。しかし、それぞれが好きな本を見ているだけでは、読書の世界は広がらず、本当の読書の楽しさも味わうことはできない。更に、読解の力をつけることも難しい。低学年から、様々な本に興味を持てるような読書紹介をするなど楽しい読書につながる取組を進めていってほしいという話が出ました。また、理科や社会科の学習につながるような

本の紹介もしていくとよいとのご意見をいただきました。また、教員も児童文学に親しみ、子どもと共に本の世界を楽しむことも大切であると思います。

「学校や学級の生活が楽しい」の項目について、楽しく学校生活を送っている児童が多いことはよいが、数人であっても楽しくないという児童がいることに注目すべきであるというご意見をいただきました。『いじめ問題』が深刻化している今日、「楽しくない」という子をなくすよう学校は取り組んでいかなければならないし保護者や地域も協力していこうとご意見をいただきました。またそれと関連して、今の子どもたちには何でも打ち明けられる『親友』がいるのかという問いかけもあり、よりよい友人関係を築く力を培うことも大切であると感じました。また、身近な情報でも悩みを相談できる大人が周囲にいないと感じている子どもたちが多いという実態もあり、私たちが信頼される大人であるよう努めていきたいといった話し合いをさせていただきました。この話し合いを生かして、すべての子どもたちが「学校が楽しい」と感じる桂坂小を目指して取り組んでまいりたいと思います。